

う。現在の中型レーダー網の穴を埋めるために小型レーダーが必要というのなら賛成だが、予報担当の各府県気象台にすべて持ちたいということなら賛成できない。レーダーを利用するためには所要の情報の抽出作業が必要だから、予報中枢だけでした方が能率的である。そして、中枢の予報者がその結果を流した方がよいと思う。

高橋：そのことは昔天気予報は中央気象台を強化すれば全国の予報が1カ所でやれるといった意見があったのと同じでおかしい。レーダーも観測測器として各地方気象台につけるべきなんだが、予算の関係で、すぐにはいかないのだというように言ってほしかった。

駒林：レーダーは多くの情報を与えてくれる無限の可能性がある。しかし、レーダーは水からなる何だかわからないものの集団を見ているにすぎない。完全なものではないから思い切った考えの持主を集めたグループを作ってやらないと5年後の進歩に大変影響してくると思われる。ドップラーレーダーと富士山レーダーの5カ年計画をききたい。大学の方にはないのだから競争になることはないと思うので。

小平：現在計画中のドップラーレーダーは出力 30kw、空中線直径 1.2m の小型のもので本年末に完成の予定である。将来は移動用として野外観測に利用したい。最初の目的は真上に向けて雨滴の大きさの分布、それから垂

直気流等を測りたい。

立平：気象学的に得体の知れないものをレーダーは与えてくれる。しかし、従来は比較的小スケールのものが研究対象とされ、シノプティックスケールに近い方は台風を除いては比較的手薄であったように思う。富士山レーダーではその探知範囲が大きいので、そのシノプティックとの関係を明らかにしてくれると期待している。富士山レーダーはコンポジット（合成図）を作らないで大スケールが見られるから、そのようなスケールでのシノプティックとの関係を調べたいと思う。当面は観測者が器械に早く慣熟することを目標としている。

香原：予報官としてレーダー映像を直接見させてほしいが、観測を全部させられるのは困る。観測は観測者が完全なものをやって、その上で観測と予報の緊密な連絡により活用すべきと思う。福岡ではレーダー予報官の構想も検討されたことがあるが、必要と思う。

大谷：現場の観測者として意見をいえば、もう観測者を廃業させてもらいたい。予報には明日以後の予報と現在の実況を主とした予報とあるが、あの方の実況通報的な予報は情報提供者としての観測とそれによる予報を一緒にやってよい時代になったのではないか。

座長：大分寒くなったのでこの辺で。

## 九州支部だより

### 1. 九州支部在福理事会報告

本誌11巻10号で報告したように1964年度からの新役員が7月14日に、ようやく決定したので、その日ただちに新旧役員の引き継ぎをすませ、午後福岡市天神ビル内ぬべる天神において在福の新役員（荒川、武田、青木、山田、坂田、岡村、黒木）により、日本気象学会秋季大会の準備について緊急に審議した。

議題は大会役員の構成、大会の会場、会期、シンポジウムの題目・懇親会の方法、エクスカーション、宿舎の選定、予算案等であった。

### 2. 九州支部理事会報告

1964年11月20日気象学会秋季大会終了日の夜、福岡市天神ビル11階第3ホールにおいて支部役員全員出席して次の議題について審議した。

(1) 支部規約改正（理事選挙細則など現規約の不備な点を補足し、本部の定款にそって体裁をととのえることなど）、(2) 支部理事会出席旅費の増額、(3) 気象学会

秋季大会の会計中間報告、(4) 次期理事会の開催関係、(5) その他

### 3. 日本気象学会昭和39年度秋季大会会計報告

#### (1) 収入の部

日本気象学会本部より	105,000円
西日本気象協会より助成金	70,000
気象学会九州支部支出	34,392
懇親会費徴収分 (137名)	41,100
計	250,492

#### (2) 支出の部

会場関係費	100,900円
懇親会	116,150
貸切バス (宿舎一会場間)	13,800
宿舎違約金	1,800
交通費	7,250
通信費その他	10,592
計	250,492